

## 第35回 万葉集を楽しむ会@花奈雅和 活動報告書

開催日:令和7(2025)年12月17日(水)10時~12時

場所:プララ杉田505

参加人数:11名(他教室を入れて15名)

### テーマ:シイ(椎)

本日の歌

---

(訓読) 家があれば 筥に盛る飯を 草枕 旅にしあれば 椎の葉に盛る

2/142 有馬皇子(ありまのみこ)

(意味) 家にいたなら食器に盛る飯なのに、草を枕とする旅の身なので、椎の葉に盛る

---

(訓読) 遅速も 汝をこそ待ため 向つ峰の 椎の小枝の 逢ひは違はじ

14/3493 作者不詳

(意味) 遅くても速くてもあなただけを待ちましょう。向こうの峰の椎の小枝が茂って葉が重なりあっているように あなたにはきっと逢えるのですから

---

高木先生は評価の高い柿本人麻呂のことを良く言わないので、人麻呂の関係する場所に行くと必ず悪いことがあるそうです。今回も明石の柿本神社に参詣した帰りに、歯痛から顔面が腫れた話から講義が始まりました。

シイはブナ科の植物ですが水分が多く建築材として役にたたないので、伐採されてスギやヒノキが植えられました。ブナ科の木になる実を総称して「どんぐり」と言います。クマが人家に出て来る理由についても導入でお話いただきました。



シイと言う植物はなく、ツブラジイ(円椎)とスダジイ(頭陀椎)のことで、マテバシイもシイと呼ばれています。葉が重なり、葉裏には細かい毛が密生しています。この重なり合う葉を使って2番目の東歌が作られています。

最初の歌は孝徳天皇の長男の有馬皇子の歌です。謀反の罪を着せられて刑死されたのですが、紀伊に送られる護送途中の歌です。

この歌は学生時代に習ったのですが、当時は草の食器にご飯を乗せて食べているという情景しか浮かびませんでした。今日写真を見ましたが、なんと小さな葉っぱでしょう。これではご飯は少ししか乗りません。有馬皇子の悲劇性が表れています。

この歌のひとつ前の歌とともに「挽歌(ばんか)」になっています。万葉集でだけしか使われない「挽歌」と言う言葉についても説明を受けました。

磐白(いはしろ)の 浜松が枝(え)を 引き結び ま幸(さき)くあらば また帰り見む 2/141

磐白の浜の松の枝を結んで、無事だったらまたここに戻ってきて見たいものだなあ



「椎の実」はタンニンが少なく生食できます。  
教室でみんなで歯の痛みを気にしながら食べました  
(先生提供)



入鹿の首塚からの帰りに映した  
飛鳥寺(先生撮影)

最近では645年の「大化の改新」は「大化の改新」とは言わずに「乙巳の変(いっしのへん)」と言うと  
の話も新鮮でした。この年に天皇に即位したのが孝徳天皇で、大化元年と言われます。「大化」は  
日本で初めての元号です。歴史に埋もれた悲劇の孝徳天皇についてもお話がありました。今年が  
その「乙巳」の年に当たるので、今回の歌を選んだとのことでした。

万葉集の歌と歴史の話をぎゅっと詰め込んだ楽しい時間でした。



本日の先生の着物と帯です。米沢八丈の着物。(八丈島産の「黄八丈」の黒はシイの樹皮から染め  
られる色で、米沢八丈はそれを再現した織物)。帯留はその黒を表し、帯はリスとどんぐりです。集  
合写真は撮ったのですがぼけていたので残念ながら掲載を断念しました。

次回(第36回)の万葉集を楽しむ会@花奈雅和のお知らせ

令和8年2月18日(水) 10:00 ~ 12:00 プララ杉田505号室

参加費：1,500円

参加申し込みは武藤陽子にお願いいたします muto\_gyosei@yahoo.co.jp

\*5日前からのキャンセルは参加費をいただくのでもよろしくお願ひ致します(資料は後日お渡しします)

令和7年12月27日 文責：武藤陽子・高木紀世子